

コンバイン利用による種子用小麦の刈取適期

水田一枝・吉野 稔・原田皓二 (福岡県農業総合試験場)

Kazue MIZUTA, Minoru YOSHINO and Kouji HARADA :
The Optimum Harvesting Time for Wheat Seed Production Using a Combine

コンバイン利用によるビール大麦の刈取適期^{1,2)}については成熟期後2~4日が適することが報告されており、この結果は種子用大麦全般にも適用できる。しかし、種子用小麦の品質、発芽率からみた刈取適期の報告はほとんどないため、小麦の採種栽培技術改善の一環として、種子専用コンバインを利用した場合の刈取時期と種子水分、発芽率、品質との関係を調査した。

1. 材料及び方法

- 1) 試験年次及び品種 1987年~'89年産ニシカゼコムギ
- 2) 刈取乾燥方法 成熟期前7日から成熟期、成熟期後10日までの間で4~5回一定面積を13時から14時に種子専用コンバイン(抜胴回転数440rpm)で刈取った後、静置式乾燥機で乾燥した。
- 3) 調査方法 水分含量は105℃ 24時間乾燥法で測定した。発芽率は常法により行い、置床後7日目に発芽率を調査した。検査等級は福岡食糧事務所に依頼して行った。

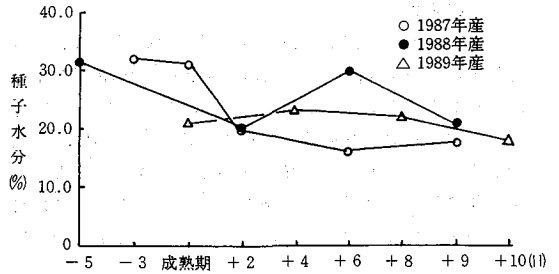
2. 結果及び考察

- 1) 成熟期前の種子水分は年次により20~30%の幅があり、成熟期後の水分低下も年次によって異なった(第1図)。1988年の成熟期後6日刈取りの水分が高いのは、降雨が続いた影響と推察される。
 - 2) 整粒歩合、千粒重は、刈取時期の早晚にかかわらず、成熟期前5日刈取りから成熟期後10日刈取りの間では一定であった(表省略)。
 - 3) 品質は、成熟期前では硬質粒、硬質未熟粒の発生が多く、成熟期後はクサレ粒、たい色粒の発生が多かったために品質が劣り、検査等級が低かった。この結果より、成熟期から成熟期後4日刈取りのものが品質が良く検査等級が優れた(第2図)。
 - 4) 発芽率は1987年、'88年とも成熟期前、成熟期刈取りは低く、成熟期後2日以降に刈取ったものが一定水準に達した。1989年は全体に低い傾向であったが、成熟期後はほぼ一定であった。
- また、コンバイン刈と手刈の比較については、成熟期前刈取りの場合にコンバイン刈が手刈に比べて破損粒が多かったために、発芽率が低下したものと考えられる(第3図)。
- 5) 以上の結果より、小麦の種子水分は成熟期後は減少しており、品質は成熟期から成熟期後4日が優れていたが、種子として最も重要である発芽率は成熟期後2日以降に一定水準になることから、種子専用コンバインを利用した場合の種子用小麦の刈取適期は、大麦と同様に

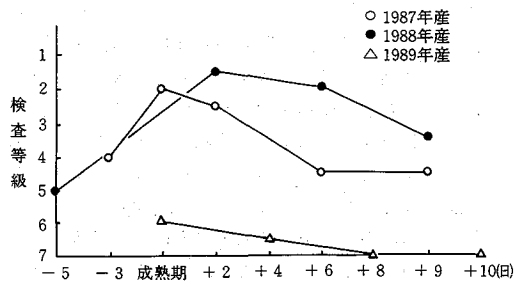
成熟期後2日から4日頃が適当であると判定された。

引用文献

- 1) 鐘江 寛ら: 福岡農試研報 13, 5-10, 1975.
- 2) 古庄雅彦ら: 福岡県農総試研報 A-6, 29-32, 1987.

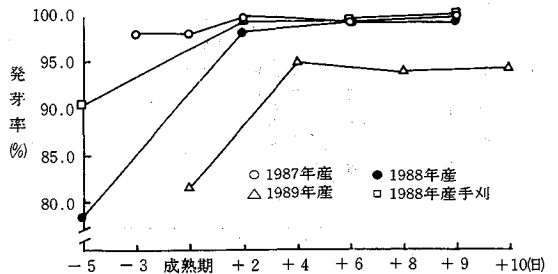


第1図 刈取日と種子水分



第2図 刈取日と検査等級

注) 検査等級: 1上~3上までを1から7まで表示



第3図 刈取日と発芽率